

9	尾北	犬山市立今井小学校	ヒラマツ カズキ 氏名 平 松 一 毅
分科会番号	3	分科会名	社会科教育（小学校）

社会的事象について主体的に問題解決し、考えを伝え合おうとする児童の育成
－ 学びを深めるための ICT の活用を通して －

1 主題設定の理由

小学校社会科の学習指導要領の教科の目標（2）には「社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。」とある。社会的事象とは「事実として具体的に知ることができる社会的な事柄や出来事」である。教科の目標における、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を養う」ことを達成するためには、まず身近な社会的事象に気付く視点が必要である。

しかし、本校周辺は自然豊かな地域であり、商店、駅などの生活に必要な施設が身近にないため、教科書に沿った社会的事象に関する学習をするにあたって具体物を示しにくい環境である。また、自然災害などについては地域教材が豊富であるといえるが、実際には危険が伴い、見学などが困難であることが問題点として挙げられる。

そこで、ICT 機器を活用し、自分たちの住む地域の画像や動画を見ることによって、身近な社会的事象に触れる機会を増し、理解を深めたいと考えた。

また、今後地理的な学習を進めるにあたり、ICT 機器によって情報を取り入れることでより充実した学習を行うことができると考える。地図帳の利用やインタビューなど、これまでに中心として行ってきた学習方法に加え、ICT の使い方にも慣れていくために、地理的な学習の基礎を養う小学校中学年の段階で、自分で地理的な社会的事象の理解を深めていくための学習を取り入れていきたいと考えた。

2 研究の方法

(1) 目指す児童像

- ① ICT 機器を活用し社会的事象についての理解を深めたり自ら進んで課題を追究したりすることができる。
- ② 社会的事象について気付いたことや疑問点を仲間と話し合い、理解を深めることができる。

(2) 研究の仮説と具体的な手だて

〈仮説 1〉

ICT 機器の操作を身に付け、自分たちの住んでいる地域について調べたことを交流することで、社会的事象の理解を深めることができるであろう。

〈仮説 1 に対する手だて〉

- ① 学習用情報端末・電子黒板などの ICT 機器を活用し、地域の様子を知る
 グーグルアースなどを使い、画像を通して犬山市を見ることで、自分たちの住む地域の様子に気付くことができるようにするとともに、地域の社会的事象に関心をもてるようにする。
- ② ICT 機器から得た情報をまとめ、話し合いに活用できるワークシートの作成
 犬山市の白地図等を活用し、地域の様子をまとめるためのワークシートを作成する。そのワー

クシートを見せ合いながら地域の様子について確認し、分からないところは児童が学習用情報端末で映像を見せることで地域の様子について理解を深める。

③ 電子黒板を活用した意見の発表

グーグルアースや白地図を電子黒板に掲示し、発表しやすくする。意見を聞いている児童もイメージをしやすくする。

〈仮説 2〉

災害の対策の様子や、ゲストティーチャーの話を映像で見せることで社会的事象について理解し、話し合いに生かしたり、疑問を解決することに生かしたりできるであろう。

〈仮説 2 に対する手だて〉

① 地域の災害対策の見学

本校周辺の災害対策（落石防護柵）を見ることで今井地区にも災害対策がされていることを確認し、自宅周辺などに災害対策がされているかどうかを自分で判断しやすくする。

② 地域の災害対策の様子を示す

地域の災害対策の様子を撮影し、今井地区全体の災害対策について把握しやすいように支援することで、今井地区全体の災害対策についての気付きや疑問点を考えやすくする。

③ 地域の災害対策工事を行う場所取材に行き、危険箇所に関する理解を深める

本校周辺で砂防堰堤の工事が行われるため、建設会社に依頼して、撮影した施工現場の様子動画をみて話し合うことで、災害対策を行う理由を考えやすくする。

3 実践と考察

(1) 仮説 1 の検証

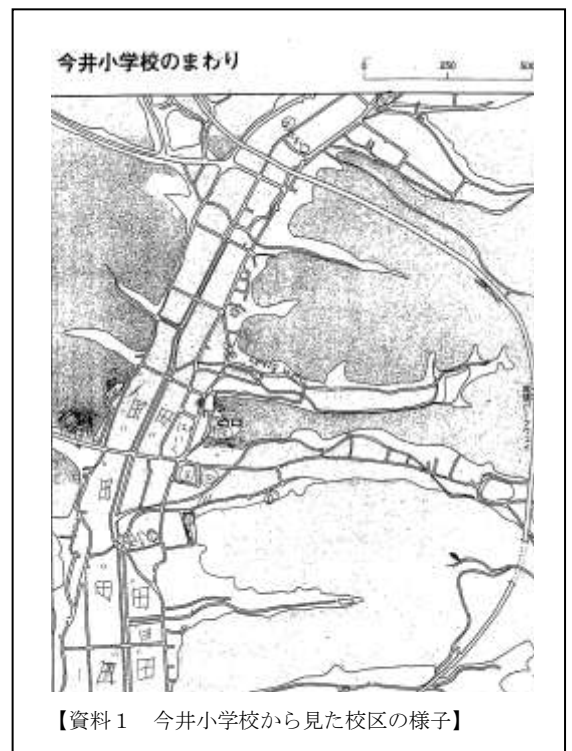
単元・・・わたしのまち みんなのまち

① 地域の様子を知るための学習用情報端末・電子黒板などの ICT 機器を活用

はじめに今井小学校周辺の様子を屋上から見て、地図にまとめた（資料 1）。学校の東側は山が広がっており、平地も田が大部分を占めている。児童は見慣れた風景であるため、スムーズに書き進めていた。しかし学習を進めるにつれて、公園、商店、寺院など今井地区には教科書に載っているものがないという声が多く聞かれるようになってきた。しかし、犬山市内ならば多くの施設があるという意見が出たため、犬山市内の様子を調べる活動につなげていった。

まず、犬山市にある建物・施設を挙げていくこととした。その際、多くの商店などを書き進めていたが、買い物に行く際に市外に行くことも多く、犬山市にある物かどうか判断しづらいという問題点があった。その解決方法としてグーグルマップを使用し、犬山市の様子を調べることにした。

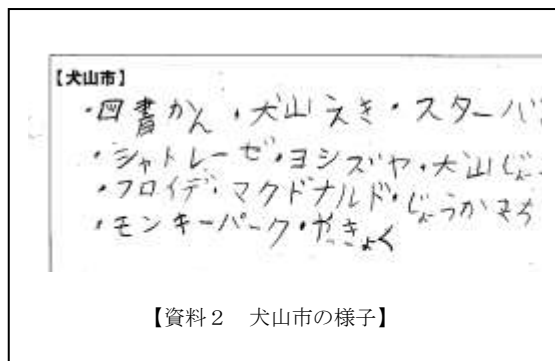
はじめに操作に慣れるため、犬山市にある施設を調べることにした。図書館や犬山城、モンキーセンターなど、これまで校外学習で行ったことのある施設を調べていくうちに、「今井からこんなに近いんだ。」「図書館の近くに駅があるね。このあたりは歩いたことがあるよ。」など、犬山市の様子に関心をもつ声が多く聞かれるようになった。



【資料 1 今井小学校から見た校区の様子】

ある程度操作ができるようになったところで、自分がよく行く場所が犬山市にあるかどうかを確認できるようになり、自分がよく行く場所ではなく、犬山市の様子を調べることが目標にすることができた。その結果、それぞれが犬山市の様子をワークシートにまとめることができた（資料2）。

また、名前を聞いても分からない場所は学習用情報端末を見せて説明することで、実物を示しながら、友だちに伝えることができた。



【資料2 犬山市の様子】

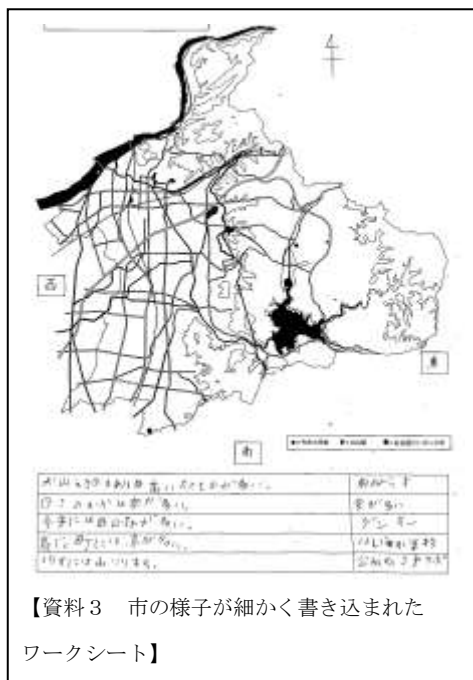
② ICT 機器から得た情報をまとめ、話し合いに活用できるワークシートの作成

犬山市その他の地域の様子を調べたことで、今井地区は他地区と比較して山が多いことにすぐに気が付くことができた。それ以外の地域の様子を調べるために、グーグルアースを活用し、地図にまとめることとした。

犬山市の白地図に、「犬山駅」「今井小学校」など、児童にとって分かりやすい場所を目印として記入し、西南北の様子をグーグルアースで調べてまとめた。

「犬山駅のまわりは高いたてものが多い」

「くりす地区には山・川がある」など、ある程度の場所とその周辺の様子を詳しく書き込むことができる児童もいたが、（資料3）多くの児童は「方角の境目が分からない」「建物が何か分からないから、南と西は同じように見える」などの理由から困惑していた。仲間の助言により、大まかにまとめることはできたが、（資料4）



【資料3 市の様子が細かく書き込まれたワークシート】

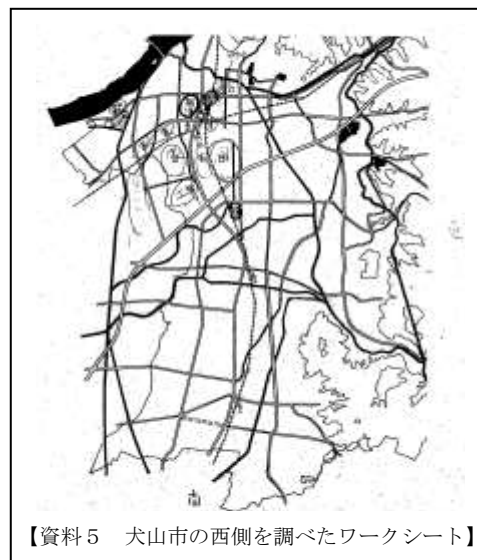


【資料4 友だちの助言を受けた児童のワークシート】

細かい町の様子を探ることは難しいようであった。

そこで、市を4つに区切ったワークシートを用意し、自分が調べたいところを中心に調べられるようにした。市全体の様子を調べる際にはよく分からないと言っていた児童も、犬山城を中心とした地域であれば実際に歩いた記憶もあったことから進んで調べることができると意欲をもち、犬山市の西側の様子を探ることとなった。グーグルアースを見て、気になったところを拡大したり、画像の角度を変えたりして、「家」「工場」「城下町」などのように建物を地図に記入することができた。（資料5）

他の児童も同じように気になった地域を調べた。市の様子をまとめる際に細かく調べていた児童は今井地区のある東側を調



【資料5 犬山市の西側を調べたワークシート】

べ、改めて山の多い地域であり、駅周辺とは違う様子であることを確認した。しかし、その中でも、公園や団地がある地域があることや、入鹿池の周りにも工場があることなど、身近な地域にも新たな発見があったことをまとめている（資料6）。その他の児童も、範囲が狭まったことにより細かいところまで調べることができた。

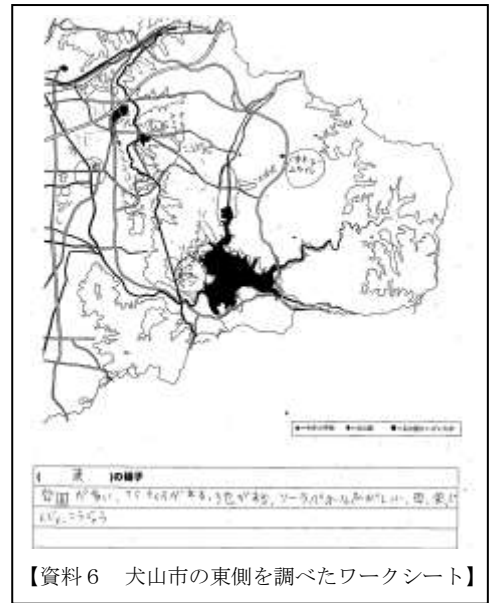
③ 電子黒板を活用した意見の発表

個人で調べたことを発表し合うことで、犬山市の様子をまとめることとした。その際に、電子黒板にワークシートを映し出したり、名前を聞いても分からない施設があったときにグーグルアースで示したり、画像を検索して映し出したりして、発表を行った（資料7）。ワークシートには東西南北の様子をまとめられるようにしており、発表された内容を方角ごとにまとめることの支援となった。

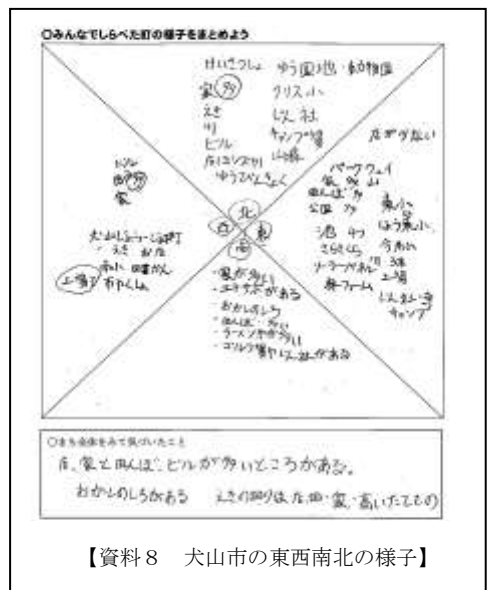
多くの児童が市の様子について方角ごとに書き込むことができ、「家、ビル、田んぼが多いところがある」「東側は公園が多い」「南側のおかしの城のまわりには工場がたくさんある」など、犬山市の様子についてまとめることができた。（資料8）



【資料7 電子黒板を使った発表】



【資料6 犬山市の東側を調べたワークシート】



【資料8 犬山市の東西南北の様子】

(2) 仮説2の検証

単元・・・自然災害からくらしを守る

① 地域の災害対策の見学

今井地区は山の囲まれた地形であるため、土砂崩れが起こる危険性がある。児童も自宅周辺で起きる自然災害は土砂崩れが多いと認識していた。地震の対策や避難についての学習以外にも、今井で重点的に行われている土砂崩れに対する災害対策についての学習も行うこととした。

学校周辺に数年前に土砂崩れが起こり、その後、落石防護柵が設けられた場所があったため、その場所を見学することで、災害が起こりやすい場所についてのイメージをもたせようと考えた。

場所は学校の正面にあったため、まず、教室の窓から様子を確認した。元々は段々畑であったが、それがくずれて木が生い茂ったようになったことなども説明した後、柵の下まで移動した（資料9）。気付いたことを話し合うと「上から見ると大丈夫だと思っても下から見ると怖い」「網が破れたり、土砂がすり抜けたりする。」など、対策に対する不安の声が多く聞かれた。



【資料9 落石防護柵の見学】

② 地域の災害対策の様子を示す

災害対策の様子を見て、自分の家の周りにも対策がされているのかを調べる活動を行うこととした。見学に行った落石防護柵以外にもさまざまな対策がされているため、今井地区の地図とともに災害対策の一部を紹介した（資料10）。これにより、自分の家の近くにある災害対策に気付く児童もいた。その後、保護者の協力を得て、今井地区で行われている災害対策を予想することとした。教師が示した例のように、ワークシートの地図に線を引き、行われていそうな災害対策を枠に記入した（資料11）。それぞれが自宅を中心に、危険箇所や実際に災害が起こったところを話し合った。土砂災害だけでなく、河川の氾濫などもあったことなどに気付くことができた。それぞれが危険箇所について考え、意見を合わせることで身の回りの危険に気付くことができた。ふりかえり際には「今井小学校の周りもきけん」「みんなの考えを合わせたら、自分が考えているよりももったきけん」などの気付きや、「さくがこわれそうなところはどうするのか」「なぜきけんなところに全部さくを作らないのか」などの疑問を出すことができた。



【資料10 災害の対策の写真】

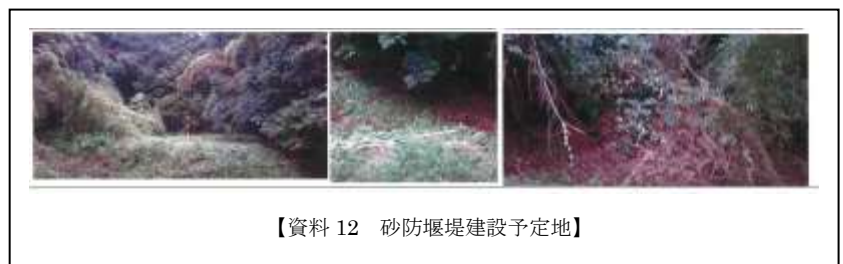


【資料11 災害の予想】

③ 地域の災害対策工事を行う場所に取材に行き、危険箇所に関する理解を深める

学校周辺に砂防堰堤を建設する工事が始まっていたため、災害箇所の理解を深めるために危険箇所の取材を行った。実際に現場を見学したいところではあったが、危険が伴う場所であるため教師が動画を撮影し、児童に見せて砂防堰堤を作る理由を話し合う場面を設定した。

建設予定地を動画と写真で撮影し、電子黒板に映し出して危険な理由について話し合



【資料12 砂防堰堤建設予定地】

った（資料12）。その際、電子黒板には動画を流し、写真を添付したワークシートに危険な理由を書き込むようにしたかったが、静止画よりも動画の方が現場の雰囲気が分かりやすいこと、動画を見ながらワークシートに書き込むことは難しいことから、口頭で危険箇所について話し合うこととなった。危険と思ったところで動画を止め、電子黒板に表示された映像を差しながら、「木が倒れそうになっているところがたくさんある」「地面が斜めになっているから木が倒れたら転がって来そう」「木や葉、泥が流れてきて、町が木や泥だらけになりそう」など、危険から守るために工事を行っていることに気付く発言が聞かれた。

また、災害対策についての話し合いで出た疑問についても建設会社の方に回答していただいた。インタビューのようにして、児童自身の疑問に答える映像を流すことで、柵の点検を定期的に行っていること、危険箇所全てに柵をつけたいが予算の関係で難しいこと、それでも重要な箇所には対策をして、わたしたちの安全を守ってくださっていることなどを聞き、納得する

ことができた。

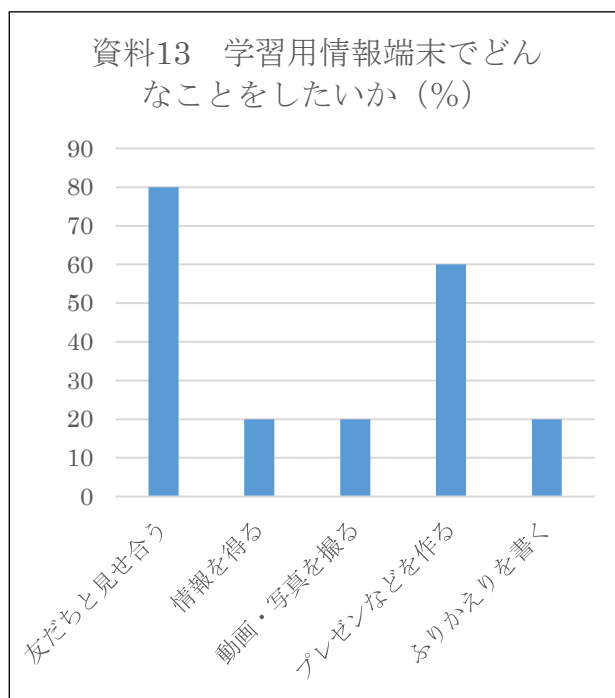
4 成果・今後の課題、これからに向けて

(1) 成果

ア 仮説①について

グーグルアースを使い犬山市の様子を見ることで、高い建物や工場がある場所など、市の具体的な様子を知ることができた。ワークシートを見せ合い、市の様子の情報交換をしたことに加え、学習用情報端末で映像を見せながら仲間と伝え合うことで、調べたことについて具体的な情報共有ができ、社会的事象の理解につながったと感じる。

また、単元終了後に「今後学習用情報端末でどんなことをしたいか」とアンケートを取ったところ、「分かったことを友だちと見せ合う」の項目を選んだ児童が最も多かったことから学習用情報端末を使って得た情報を友だちと共有することを児童が楽しんでおり、それが学習内容の理解につながっていることも伺えた(資料13)。



イ 仮説②について

地域の映像を撮影し、電子黒板で見せることで、児童にとって見たことのある場所の危険の理解につながり、災害が自分たちにも関わることであることを意識させることができた。また、実際の対策をいくつか紹介したことで、身の回りの災害対策についての理解が深まり、資料11の予想の記入への支援となったと考えられる。ワークシート見ながら話し合いを進めることによって、児童同士が意見を伝え合い、災害対策の様子や危険箇所などの社会的事象についての理解を深めることができたと思う。

(2) 今後の課題

ア 仮説①について

グーグルアースを使用した際、犬山市と他の市町との境界線が分かりづらく、教師が机間巡視の際に支援をする必要があった。市の様子についてあまり理解できていない段階では目印にできる場所も少なく、児童同士の支援も難しかった。オリエンテーションの時間を増やすなどして、犬山市の様子について理解させるなどの支援が必要であった。

イ 仮説②について

映像や動画を教員が提示するだけでなく、児童が撮影したり、調べたりする活動を取り入れることができるようになった。教科書で他県の様子を学習した際に、砂防堰堤や堤防などの設備の学習をしていたので、それを生かした学習ができるとよかったと感じる。

(3) これからに向けて

今回の実践を通して、ICT機器を社会的事象の理解に生かすことができ、話し合いによってさらに理解を深めることができたと感じる。児童がICT機器の活用慣れれば、さらに学習効果が高まると考えられる。また、今回の実践で建設会社や保護者の方々にも協力をいただき学習をすすめることができた。ICT機器の使用だけでなく、得た情報を質問等に生かすなどの学習活動につなげることで、さまざまな学習活動の効果を高めていきたい。